

公表 事業所における自己評価結果

事業所名 特定非営利活動法人KoKoRo笑

公表日 2026年2月12日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等の関係で適切であるか	13		その都度、活動部屋以外において個別対応している。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		配置基準以上の職員を配置している。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13		分かりやすく、整理整頓されている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	13		毎日清掃を行い、活動に合わせ環境を整えている。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13		状況に応じて個別に対応出来るようにしている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	13		企画の際には必ず企画書を作成し、実行後改善案についても記載している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		評価表の集計後職員への周知、会議において内容を検討している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		日々のミーティングや会議において、職員間で話し合い業務改善を行っている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		13	第三者委員会検討中で設置には至っていない。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人等で研修を開催する機会が確保されているか。	13		協会等の外部研修や事業所内にて研修を行っている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		5領域を踏まえた支援プログラムを作成しHPIに公表している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13		アセスメントは定期的に行い、保護者のニーズを伺って個別計画書を作成し、実施している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	13		定期的に個別支援計画会議を行い、職員間に意見を出し合い検討している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		職員がいつでも確認出来るようにファイルし、支援を行っている。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13		日々の活動や気づいた点などを含めて業務日誌や個別日誌へ記録している。活動中の行動観察は共通のツールを用いて職員間で共有している。	
適切な支援の供給	16 放課後等デイサービス計画には放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13		会議等で話し合った支援内容を含めて個別支援計画書に記載し、支援している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13		作業・学習・運動と日々の活動に合わせ計画し行っている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13		職員全体で知識やアイデア収集に努めている。	パターン化しないようにする
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13		カリキュラムをベースに設定しており、状況に応じて対応を変え支援している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13		支援開始前にはミーティングを行い、活動の流れや支援の内容・注意すべき点などを周知し支援を行っている。	
支援終了後	21 支援終了後には、職員間で必ず打ち合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13		支援終了後にはミーティングを行い、振り返りや対応の改善策などを確認し合い、次の支援に繋げている。	

適切な支援の供給	22	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		業務日誌・個別日誌に日々記録し、職員間で共有し改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	13		定期的にモニタリングを行い、検討見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援をおこなっているか。	13		基本活動を組み合わせ、障害の特性・発達の状況に応じた支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13		子どもが選択出来るよう二者択一を用いて自己決定能力を養えるよう支援している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		管理者・サービス管理責任者が参画し、意見交換を行っている。	
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13		保護者様の許可を得たうえで、関係機関と連携し情報を共有している。	
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	13		年間行事・下校時刻表は保護者より提供を受けている。トラブルがあった場合には、保護者や学校の先生と連絡調整し、適切に対応している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	11	2	児童発達支援の職員に定期的に電話やメールで連携を図っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	13		就労移行支援事業所へ情報を提供し、移行するお子様の事業所見学等に同行している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	11	2	地域の発達支援センター等の専門機関と定期的に連絡会を行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10	3	短い時間ではあるが、公園などでは他の子ども達と触れ合う機会がある。	機会をつくりていきたいと考えている。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	13		複数名の職員が研修等に参加している。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		常に保護者へ状況や課題を伝えている。共通理解においては少しでも歩み寄れるように努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	2	相談を受け悩んでいる保護者には、本の貸し出しや面談・電話にて情報提供を行っている。	
	36	運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		契約時に丁寧かつ詳細に説明している。	
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		作成前には必ず面談や保護者へモニタリ用紙を配布し、子どもの状況や子どもや保護者の意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13		子どもや保護者の意向を踏まえた個別支援計画書を作成し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		その都度受けた相談に対し、面談や電話メールにて迅速に必要な助言をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	6	保護者様への負担を考慮しながら今後検討していきたいと思います。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		苦情等があった場合には、速やかに状況を確認し対応を行い、記録に残している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13		毎月通信にて活動風景を発信している。状況に応じてメールや電話にて活動概要を連絡説明している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		個人情報保護に基づき、適切に対応している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		コミュニケーションツールを用いたり、表情等から意思を確認している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	7	実施していない。	今後、機会をつくり取り組みたいと考えている

保護者への説明等	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	各種マニュアルを作成し、常時閲覧出来るようになっている。定期的に訓練を行っている。	
	47	業務改善計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	定期的に研修を行い、避難・消火・通報等の訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13	連絡帳やメール等で保護者より状況・情報をいただき、確認している。	
非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	ご家庭からの指示のもと、除去や代替品での提供を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13	マニュアルを作成し、研修・訓練を行っている。安心・安全を第一に考え日々支援を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13	「安心・安全のための対応マニュアル・安全計画」を配布し、周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	13	記録用紙を作成し状況を共有し、再発防止に向け取り組んでいる。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	虐待防止委員会を設置し、定期的に会議を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13	身体拘束に関する同意書を作成し、保護者へ説明し同意を得ている。	